

宇久島の未来へ



発行人：宇久島みらいエネルギー合同会社

問合せ先：宇久島総合開発株式会社 0959-57-2411

新型コロナウイルス対策

長崎県は独自の特別警戒警報を発令し、不要不急の外出および県外や離島の往来を自粛する方針を示しております。当社としてもこの方針に則り、行政の指導に基づいて定めた感染防止対策基準を順守することを、社員はもとより関係者へも周知徹底しております。

入島前における対策

入島前には、佐世保事務所にて2週間の健康観察記録の確認および医療機関にて新型コロナウイルス検査を実施し、人との接触を極力避け入島致します。また検査結果証明書は、佐世保及び宇久島事務所にて管理致します。

入島後における対策

入島後の1週間は島民との接触を極力避け、健康状態の経過観察を行います。入島後に発熱の症状及び体調が悪くなった場合には、島内の診療所は利用せず、即刻島外のチャーター船にて出島します。

島内から島外への出張・帰省

県内への出張・帰省：健康観察を常に実施し、異常のない事を確認致します。

県外への出張・帰省：健康観察に加え、新型コロナウイルス検査を実施します。

島内活動時の注意事項

島内での活動は、マスク着用、手洗い、うがいをする等の基本的な予防対策を徹底的に講じて参ります。また、今後、国、県また佐世保市から新たな方針が出された場合は遵守して参ります。

宿舎について

宇久町総合公園に1,000人規模の宿舎を建設することについて、佐世保市より対象用地を賃貸頂き準備を進めてまいりました。

しかしながら、新型コロナウイルスを離島である宇久島に持ち込まず、持ち込ませず、島民の安全、安心を確保する為、コロナ禍の沈静化状況をみながら、当面宇久町総合公園における作業員宿舎建設を見合わせます。

今後、宇久町総合公園の再度使用も含め、新型コロナウイルス防止対策として宿舎を島内、島外において分散配置する等、最善の方法を検討して参りたいと思います。

なお、防犯面などについても島民の皆様とも協議し、その方向性についてはまたご報告致したいと思います。

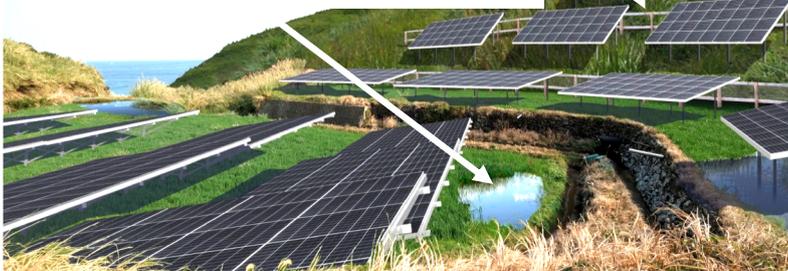
パネル設置と災害防止対策のイメージ

近年ゲリラ豪雨など雨水による被害が各地で発生しています。宇久島メガソーラー事業は工事期間はもとより運用開始後も災害の防止に努めます。アウトライン測量後、パネルのレイアウトと防災計画についてお示しし、地域の地区関係者と協議致します。

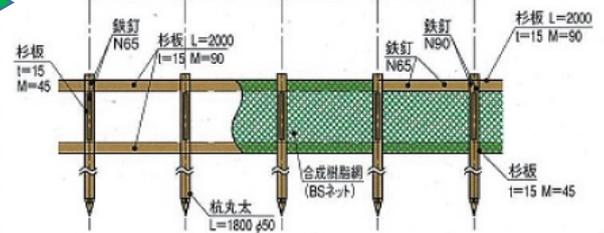
防災イメージ

②しがら柵

①畦畔による雨水の一時滞留



- ①以前田畑であった場所は畦畔などを利用し、保水機能を持たせることで、防災面に貢献するように考えています。またパネル下やその周辺に草を生やすことで急激な雨水の流出を緩和させます。
- ②斜面の途中に「しがら柵」という木杭で固定されたネットを配置することで土砂や木切れ・ゴミなどが流れ出すのを防止します。



③調整池の設置



調整池イメージ

島内のおよそ30本の河川が氾濫しないように必要に応じて調整池を設けます。

営農型パネル設置箇所の現状



宇久島メガソーラー事業では、一部の箇所で営農型太陽光発電（ソーラーシェアリング）という、パネルの下で牧草などの農作物を育てる取り組みを行う予定です。

営農型太陽光発電では、パネルの間隔を十分にとり、隙間から太陽光が農作物に十分に当たるようにする事で、農作物の育成と太陽光発電の両立を図ります。

その計画面積はおよそ100haで、昨年夏にまず10haを耕し、秋に種を蒔いた牧草は瑞々しく育っています。引き続き圃場整備および牧草育成を行うとともに、発電所建設工事の準備を進めていきます。